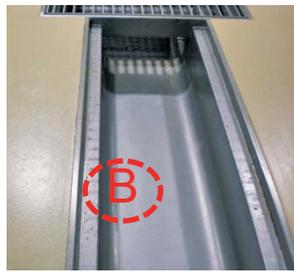




6. 排水溝



注意等

- ・排水溝に足をとられないよう、注意する。
- ・食品が調理場内から搬出された後に洗浄する。

【準備するもの】

- ・専用フック
- ・中性洗剤などの洗剤（毎日）
- ・アルカリ洗浄剤（特に汚れた場合）
- ・清掃用バケツ
- ・ブラシ
- ・ゴム手袋
- ・ビニールエプロン

【洗浄のポイント】

- A グレーチングの網目
- B 排水溝の角

(1) 排水溝

【汚染・非汚染作業区域共通】

| 洗浄の頻度 | 洗浄方法 |
|----------------------------------|---|
| 毎日 | ①専用フックを使用し、溝カバーを取り外す。 ②清掃用バケツに洗剤液を作り、ブラシに付けてこすり洗いする。 ③流水で洗い流した後、溝カバーを元の場所に設置する。 |
| 週1回程度 又は 毎日の作業で 特に汚れた場合 | ①専用フックを使用し、溝カバーを取り外す。 ②排水溝及び溝カバーに洗剤を付けて、4～5分放置後にブラシでこすり洗いする。 ③流水で洗い流した後、溝カバーを元の場所に設置する。 |

(2) ステンレス製蓋なし排水溝

【汚染・非汚染作業区域共通】

| 洗浄の頻度 | 洗浄方法 |
|-------|---|
| 毎日 | ①専用ブラシに洗剤を付け、溝の中をまんべんなく洗浄する。 ②流水で洗い流す。 |



7. 排水マス



注意等

- ・必ずゴム手袋を装着して行う。
- ・排水マスに溜まったゴミは、水を切り、生ゴミとして処理をする。

【準備するもの】

- ・中性洗剤などの洗剤（毎日）
- ・アルカリ洗浄剤（特に汚れた場合）
- ・ブラシ
- ・ゴム手袋
- ・ビニールエプロン

【洗浄のポイント】

- A マスの網目
- B マスの角

【汚染・非汚染作業区域】

| 洗浄の頻度 | 洗浄方法 |
|-------|--|
| 毎日 | ①排水マスを取り外し、中のゴミを取り除く。 ②専用のブラシに洗剤を付け、まんべんなくこすり洗いする。 ③流水で洗い流す。 ④排水マスを元の場所に設置する。 |

* 排水溝・排水マスの清掃の手順

排水溝→排水マス→排水溝・排水マスの周辺の床の順で清掃する。

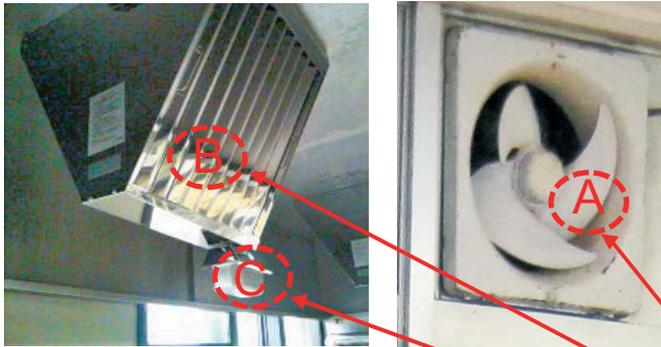


ひとことアドバイス

グリーストラップ内が汚れていると、悪臭や細菌、害虫が発生します。
排水溝、排水マスも含めて常に清潔な状態にしましょう。



8. 換気扇



【準備するもの】

- ・ 清掃用バケツ
- ・ アルカリ洗浄剤等の洗剤
- ・ ゴム手袋
- ・ スポンジ
- ・ 布きん

【洗浄のポイント】

- A 羽根
- B フィルター
- C オイルカップ

注意等

- ・ 換気扇の材質や汚れの状態に合わせて洗剤を使い分ける。
- ・ 高いところの仕事なので、足場にご注意する。

| | 洗浄の頻度 | 洗浄方法 |
|-------|-------|---|
| 羽根部分 | 学期毎 | ①電源を切り、羽根等取り外せる部品は取り外す。 ②乾いたほこりを取り除く。 ③油汚れのひどい場合はヘラで落とす。 ④ゴム手袋を装着し、専用のバケツに温かい洗剤液を作り、その中に水に浸せる部品を漬けておく。 ⑤スポンジでこすり洗いする。 ⑥流水で洗い流す。 ⑦乾燥させ元の場所に設置する。 |
| フード部分 | 学期毎 | ①電源のスイッチを切り、フィルター、オイルカップ等、取り外せる部品は取り外す。 ②以降は羽根部分と同じ。 |
| ダクト部分 | 学期毎 | ①換気扇の下や横が水で濡れてもよいように、長めの布きんやゴミ袋を切ったものを当て、布テープ等で止める。 ②油に強いスプレータイプのアルカリ洗浄剤をまんべんなくふき付ける。 ③しばらく放置し、ゴム手袋をはめ、スポンジでこすり洗う。 ④軽くしぼった布きんで拭き上げる。 |



ひとことアドバイス

- ・ 換気扇の汚れは、油や固形化したほこりが主です。比較的最近付いた汚れは簡単に取れますが古くなると取れなくなるので、汚れが溜まらないうちに洗浄しましょう。
- ・ フィルター部分がアルミ製材のものは、アルカリ洗浄剤が使えない場合があるので確認しましょう。
- ・ 機器メーカーごとに洗浄・消毒方法が異なるので、使用機器の取扱い説明書を守って洗浄しましょう。

9. ウォークイン冷蔵庫・冷凍庫（冷蔵室・冷凍室）



【準備するもの】

- ・ほうき
- ・ちりとり
- ・布きん
- ・中性洗剤などの洗剤
- ・モップ
- ・アルコール
- ・ペーパータオル

【洗浄のポイント】

- A 棚網
- B 扉の取っ手
- C 床と壁の境目
- D 扉

注意等

- ・必ず電源を切ってから行う。
- ・庫内上部の機械には水をかけない。
- ・清掃終了後は十分に乾燥させる。

| 洗浄の頻度 | 洗浄方法 | |
|---------------------|---|---|
| 毎日 | ゴミを取り除き、冷蔵庫は床をモップで水拭きする。 ※食品のドリップなどが付着した場合は、すみやかに拭き取る。 | |
| 月に1～2回 又は 学期毎 | 扉・壁・棚 | 柔らかい布きんで、扉、壁、棚を水拭きする。 ※汚れがひどい場合は、洗剤を含ませた布きんで拭いた後、硬くしぼった別の布きんで拭き上げる。 |
| | 床面 | ①モップに洗剤を含ませ、軽くしぼり床面を拭く。 ②水を含ませ、硬くしぼったモップで洗剤を拭き取る。 ※汚れがひどい場合は、洗剤を付けたブラシでこすり洗いし、流水ですすぎ、ドライワイパーで水切りした後、乾いたモップで拭き上げる。 |

【消毒について】

- * ドアの取っ手に肉、魚、卵液等、汚染度の高い食品が付着した場合は、ペーパータオルで拭き取った後、アルコールを浸したペーパータオルで拭き上げる。
- * 非汚染作業区域では、調理開始前及び調理中に調理後食品の出し入れを行う際には、ドアの取っ手をアルコールを浸したペーパータオルで拭き上げる。



ひとことアドバイス

- ・冷凍庫の扉部分の結露を放置するとカビ発生の原因になるので、注意しましょう。
- ・機器メーカーごとに洗浄・消毒方法が異なることがあるため、使用機器の取扱い説明書を守って洗浄しましょう。
- ・庫内冷却機ファンの取扱いは専門業者に依頼しましょう。



10. 食品庫



【準備するもの】

- ・ほうき
- ・ちりとり
- ・中性洗剤などの洗剤
- ・布きん
- ・モップ

【洗浄のポイント】

- A 床と壁の境目
- B 棚等の後ろ側

注意等

- ・庫内を十分に乾燥させる。

| 洗浄の頻度 | 洗浄方法 | |
|-------|---|---|
| 毎日 | ①ゴミを取り除く。 ②モップ等で水拭きした後、床面を乾燥させる。 ※食品のドリップが付着した場合、又は汚れがひどい場合は、洗剤を含ませた布きんで拭いた後、硬くしぼった別の布きんで水拭きする。 | |
| 週1回程度 | 柔らかい布きんで、棚を水拭きする。 | |
| 学期毎 | 壁面・棚 | 庫内の壁や棚を水拭きする。 ※汚れがひどい場合は、洗剤を含ませた布きんで拭いた後、硬くしぼった別の布きんで水拭きする。 |
| | 床面 | ①粗ゴミを取り除く。 ②モップに洗剤を含ませ、軽くしぼり床面を拭き上げる。 ③水を含ませ、硬くしぼったモップで洗剤を拭き取る。 |



ひとことアドバイス

食品庫には、食品以外のものは入れないようにしましょう。

11. 便所

「便所の清掃・消毒」の基本的な考え方

便所には、ノロウイルスや腸管出血性大腸菌O157をはじめとする病原微生物が存在している可能性があります。これらの病原微生物を便所から持ち出さないために、便所は常に清潔に保つことが大切です。

〈清掃・消毒のタイミング〉

- * 便所の清掃及び消毒は、調理終了後に行う。
- * ノロウイルス、腸管出血性大腸菌O157など病原微生物による食中毒や感染症発症者及び病原微生物保有者の存在が確認されたときは、ただちに清掃・消毒する。
- * 消毒剤はノロウイルスに効果のある次亜塩素酸ナトリウム溶液を使用する。

〈清掃・消毒の順番〉

- * 汚染度が低い箇所から順に清掃・消毒する。
(例) ドアノブ、給水レバーなどの手指が直接触れる箇所→手洗い設備→便座、蓋→便器→サンダル→床

〈清掃・消毒担当者の衛生保持〉

- * 調理衣を着用して便所に入らない。
- * 清掃者は、病原微生物感染防止のために「ゴム手袋」、「マスク」を装着する。
嘔吐物、下痢便の処理時や、病原微生物保有者の存在が確認されたときには、更に「使い捨てエプロン」を装着する。
- * 便所を清掃・消毒した後は「標準的な手洗い」をする(「学校給食調理場における手洗いマニュアル(文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課、平成20年3月)」参照)。
- * 便所の清掃を行った者がわかるよう、記録(当番表など)する。



〈清掃時の服装(例)〉

○×調理場 学校給食従事者専用便所清掃記録簿
平成○年×月

| 日 | 曜日 | 清掃者 | 清掃時間 | 備考 | 日 | 曜日 | 清掃者 | 清掃時間 | 備考 |
|----|----|-----|-------|-------------------------|----|----|-----|------|----|
| 1 | 月 | 鈴木 | 16:00 | | 16 | 火 | | : | |
| 2 | 火 | 鈴木 | 16:05 | | 17 | 水 | | : | |
| 3 | 水 | 鈴木 | 16:00 | | 18 | 木 | | : | |
| 4 | 木 | 鈴木 | 16:08 | | 19 | 金 | | : | |
| 5 | 金 | 鈴木 | 16:00 | | 20 | 土 | | / | / |
| 6 | 土 | | | | 21 | 日 | | / | / |
| 7 | 日 | | | | 22 | 月 | | : | |
| 8 | 月 | 田中 | 16:00 | | 23 | 火 | | : | |
| 9 | 火 | 田中 | 16:15 | | 24 | 水 | | : | |
| 10 | 水 | 田中 | 16:15 | | 25 | 木 | | : | |
| 11 | 木 | 田中 | 16:10 | ○×さん下痢症状、使い捨てエプロン着用して清掃 | 26 | 金 | | : | |
| 12 | 金 | | | | 27 | 土 | | / | / |

〈学校給食従事者専用便所清掃記録簿(例)〉



〈洗浄剤・消毒剤の使用時の注意〉

- * 清掃する部分の材質に応じて清掃方法、洗浄剤、消毒剤、洗浄道具を使い分ける。
- * 洗浄・消毒時は窓を開放、換気扇を回すなどして換気をする。
- * 洗浄剤は、浄化槽の微生物に影響を与えない成分のものを使用する。
- * 浄化槽内の微生物に影響を与えないために必要以上の量を使わないようにし、更に十分な量の水を流してすすぐ。

〈便所の材質別の主な注意点〉

| 材質 | 部分 | 主な注意点 |
|-----------|------------|---|
| 樹脂、プラスチック | 便座、蓋など | <ul style="list-style-type: none"> ・ 酸性、アルカリ性の洗浄剤や消毒剤で、割れることがある。 ・ 乾いた布で拭くと、静電気でホコリを吸い寄せたり、表面に傷がつくことがある。 ・ 熱湯で変形することがある。 |
| 陶器 | 便器、水洗タンクなど | <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱湯で割れることがある。 |
| 金属 | 配水管など | <ul style="list-style-type: none"> ・ 酸性の洗浄剤（酸性のトイレクリーナーなど）・消毒剤で、さびることがある。 |

〈便所で使用する洗浄剤・消毒剤〉

| | 洗浄剤・消毒剤 | 主な用途、性質 |
|-----|-------------|---|
| 洗浄剤 | 便所用中性洗剤 | ・ 黄ばみ、黒ずみなどの汚れ落としに適している。 |
| | 台所用・住宅用中性洗剤 | ・ 手あか、ほこりなどの軽い汚れに適している。 |
| | クリームクレンザー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 洗剤では落ちない、しつこい汚れを落とす。 ・ 研磨剤が配合されており、こすりすぎると傷がつく。 |
| 消毒剤 | 次亜塩素酸ナトリウム | <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属をさびさせることがある。 ・ アルカリ性なので、酸性の洗浄剤（酸性のトイレクリーナーなど）と混合すると塩素ガスが発生し、大変危険である（PartI (P8)参照）。 |

〈汚れ別洗浄剤・消毒剤の使い分け〉

| 汚れの見た目 | 汚れの種類 | 用いる洗浄剤・消毒剤（例） |
|-------------------|--|-----------------------|
| 便器周りの床にできる黒いシミ | 尿中のアンモニアによる「シミ」 | 中性洗剤、クリームクレンザー |
| 便器内、手洗い器のザラザラした汚れ | 脂肪分と水道水中の金属成分が反応して生成した「金属石けん」 | 台所用・住宅用中性洗剤、クリームクレンザー |
| 便器内の黒い輪ジミ | カビ | 次亜塩素酸ナトリウム |
| 便器内の灰白色のスジ上の汚れ | 水道水中のケイ酸が便器表面のガラス質に反応して作られた不溶性の「水垢」に、ほこりや鉄分が混じったもの | 中性洗剤、クリームクレンザー |
| 便器内、手洗い設備のピンク色の汚れ | 増殖した「細菌」 | 次亜塩素酸ナトリウム |
| 嘔吐物、下痢便 | ノロウイルスなどの病原微生物 | 次亜塩素酸ナトリウム |

便所個室



【準備するもの】

- ・ 便所用洗浄剤（中性洗剤）
※浄化槽内の微生物に影響を与えないもの
- ・ 次亜塩素酸ナトリウム溶液
※嘔吐物等 無：200ppm／有：1,000ppm
- ・ 便器洗浄用ブラシ
- ・ 柔らかい布
- ・ ゴム手袋
- ・ マスク
- ・ モップ、デッキブラシ
- ・ ほうき、ちりとり

便所専用

【毎日行う作業】

〈ドアノブ、給水レバーなどの手指が直接触れる箇所〉

- ①布で水拭きする。
- ②次亜塩素酸ナトリウム200ppm溶液を含ませて軽くしぼった布で浸すように拭き上げる。
- ③5～10分後に、水を含ませて軽くしぼった布で浸すように拭き上げる。

〈手洗い設備〉

- ①中性洗剤を含ませたスポンジでこすり洗いしたのちに、流水ですすぐ。
- ②次亜塩素酸ナトリウム200ppm溶液を含ませて軽くしぼった布で拭き上げる。
- ③流水ですすぐ。
- ④乾いた布で水気を拭き取る。

〈便座、蓋〉

- ①中性洗剤を含ませた布で拭く。
- ②次亜塩素酸ナトリウム200ppm溶液を含ませて軽くしぼった布で浸すように拭き上げる。
※材質によっては次亜塩素酸ナトリウム溶液に適さないものがあるため、注意すること。
- ③5～10分後に、水を含ませて軽くしぼった布で浸すように拭き上げる。
- ④乾いた布で水気を拭き取る。

〈便器〉

- ①便所用洗浄剤を便器内側に塗布し、便器内部、フチ部を便器洗浄用ブラシでこすり洗う。
- ②便器外側は、便所用洗浄剤を含ませた布で拭き上げる。
- ③数回水を流してよくすすぐ。
- ④便器内部、便器フチ部に向けて次亜塩素酸ナトリウム200ppm溶液を塗布する。
※洗浄瓶などに噴射ノズルがある容器を使う。



便器フチ部に次亜塩素酸ナトリウム溶液塗布の例



※スプレーボトルは次亜塩素酸ナトリウム溶液が霧状に飛散して清掃者の口や目に入る危険があるため使用しない。

※次亜塩素酸ナトリウム溶液は、浄化槽内の微生物に影響を与えることがあるため、必要以上に量をかけすぎないこと。

※次亜塩素酸ナトリウム溶液は効力が低下するので作り置きしないこと。

- ⑤5～10分後に、数回水を流して便器内部をよくすすぐ。
- ⑥便器外側は、水を含ませて軽くしぼった柔らかい布で拭き上げる。

〈サンダル〉

- ①全体を中性洗剤等で洗浄し、流水ですすぐ。
- ②専用バケツに入れた次亜塩素酸ナトリウム200ppm溶液に5～10分間漬け込む。
- ③流水ですすぎ、乾燥させる。

〈床〉

- ①床のゴミを掃き集める。
- ②便所用洗剤など床の材質に合った洗剤液を含ませて軽くしぼった便所清掃用のモップで、床全体をまんべんなくこすり洗いのする。
※床がタイル、コンクリートなど凹凸がある材質の場合は、週1回程度はデッキブラシでこすり洗いのする。
- ③水を含ませ、軽くしぼった便所清掃用モップで拭き上げる。
- ④次亜塩素酸ナトリウム200ppm溶液を含ませて軽くしぼった便所清掃用モップで拭き上げる。
- ⑤水を含ませ、軽くしぼったモップで拭き上げる。
- ⑥床面を乾燥させる。

【週1回程度行う作業】

毎日洗浄・消毒を行う「ドアノブ、給水レバーなどの手指が直接触れる箇所」、「手洗い設備」、「便座、蓋」、「便器」、「サンダル」、「床」に加えて、次の箇所も清掃する。

〈壁〉

- ①床から1m程度の高さの壁を水拭きする。
- ②次亜塩素酸ナトリウム200ppm溶液を含ませて軽くしぼった布で浸すように拭き上げる。
- ③5～10分後に、水を含ませて軽くしぼった布で拭き上げる。



ひとことアドバイス

- ・モップ等の清掃用具が汚染されていると、洗浄しているつもりが逆に汚染を広げてしまうことがあります。
- ・モップ等は清掃・洗浄後に便所内の洗い場（ない場合は専用バケツ）でよく揉み洗った後、次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒し、すすいだ後、乾燥しやすいように吊り下げて保管しましょう。



ひとことアドバイス 1

◆便器洗浄、お尻洗浄の水圧に注意！！◆

用便後、便器の洗浄水が勢いよく流れたり、お尻洗浄の水圧が強すぎたりすると、洗浄水の水しぶきとともに、糞便や糞便に含まれる病原微生物が周囲に飛び散ることがありますので、水圧を調節することが大切です。

また、洗浄ノズルも、製品の取扱い説明書に基づいた方法で定期的に洗浄しましょう。



ひとことアドバイス 2

◆手指が汚染を広げる！！◆

蛍光剤の入ったローションを手指に付けて、通常どおり便所を使用しました。ブラックライトで照らすと、手指で触れたところが白く光っています。ここがよく汚染される場所です。

用便後、個室で手洗いを行わないと、手指に付着した病原微生物は、このように広がっていきます。用便後は個室で手洗いを確実にいきましょう。また、便所の清掃・消毒後も「標準的な手洗い」を行った後に他の作業に移りましょう。



◆便所に入る際に調理衣を脱いで入る理由◆

病原微生物及び糞便を調理衣に付けないためです。特にズボンには汚染されやすいので、必ず脱いで入りましょう。